

事業所名

児童発達支援くりえいと2

## 支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

2月

3日

法人（事業所）理念	子どもたちの未来の笑顔を創造する							
支援方針	<p>○お客様の発達段階に合わせたアプローチを行う。 お客様一人ひとりの特性に合わせて考え、適切な療育を行います。</p> <p>○メリハリをつけて療育を行う。 「静」と「動」のメリハリをつけ、子どもたちが意欲的になりしっかりと学べる療育を行います。</p> <p>○専門的な療育を行う。 異なる子どもたちの特性に対応するために、プロとして専門性を持ち療育手法を検討し、臨機応変かつ柔軟な思考で療育を行います。</p>							
営業時間	9時	00分	から	17時	00分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
健康・生活	<p>○健康状態の把握・維持・改善 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。</p> <p>○基本的生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。</p> <p>○構造化等による環境調整 生活の中で、遊びを通し学習できるよう環境を整える。障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p> <hr/> <p>[具体的な支援]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時に保護者や通園先のご協力のもと、お客様の健康状態を把握します。</li> <li>・お客様の心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった場合は、必要な対応を行います。</li> <li>・基本的生活習慣（靴の着脱、手洗い・うがい・排泄等）等を身に着け、自立を促していきます。</li> <li>・着替えや身支度等について、お客様一人ひとりの年齢や状況に応じ目標を確認します。また、お客様の達成目標に応じた対応（声掛け、視覚的な掲示、構造化等）を行います。</li> <li>・言葉掛けで自分のすべき行為に気づくことや協力動作を引き出し増やすこと、準備片付けも含めた自立に向ける等の取り組みを行います。</li> <li>・睡眠、食事、排泄等の基本的生活習慣を形成し、生活リズムを身につけられるよう支援します。</li> <li>・連絡帳を通して、お客様一人ひとりの生活習慣を知ること、お客様の健康や安全に十分注意をしながら支援をしていきます。また、ご家族との過ごし方等を知るところを通して、それぞれのご家庭に合った支援を一緒に考えていきます。</li> <li>・イラストや文字を用いた視覚的支援を行い、見通しを持って安心して生活ができるように支援します。</li> </ul>							

	運動・感覚	<p>○姿勢と運動・動作の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得できるよう支援する。</p> <p>○保有する感覚の活用 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>○感覚の補助及び代行手段の活用 必要に応じ眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。</p> <p>○感覚の特性（過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。</p> <p>-----</p> <p>[具体的な支援] ・歩く、走る、くぐる、跳ぶ、のぼる等の日常生活に必要な動作の基本となる動きを楽しみながら経験する中で、身体の土台づくりを行います。 ・手先を使った活動を楽しみながら経験する中で、生活動作の基本や手指機能の土台づくりを行います。 ・運動遊びやサーキット、ボール遊び、感覚遊び、ダンス、制作等の活動を通して、運動や手指の巧緻性を図ります。一人ひとりの好きな感覚や苦手な感覚に配慮しながら、遊びや活動を行うことで、様々な感覚や感触に触れ、五感を活動できるようにサポートしていきます。 ・日常生活において必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図ります。 ・活動の手本を見せ、力の加減を学んだりいくつかの動作を同時に行ったりすることができるように目指します。 ・持っている視覚、聴覚、触覚などの感覚を活かしつつ、状況を把握しやすくするため眼鏡、補聴器などの補助器具を活用できるように支援します。 ・感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ仕切りをついたり別室で過ごしたりする等、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。</p>
本人支援	認知・行動	<p>○感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して必要な情報を収集し、認知機能の発達を促す支援を行う。</p> <p>○知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p> <p>○空間・時間、数等の概念形成の習得 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。</p> <p>○認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりに対する支援を行う。</p> <p>○行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。</p> <p>-----</p> <p>[具体的な支援] ・NCプログラムを用いて、お子様の発達段階をつかみ、それに合わせた課題に取り組むことでお子様の成長を促します。 ・活動の中で情報を理解しやすいように視覚化（写真、カード等）し、自身で理解できる情報を適切に処理し、自ら選択・行動につなげられるよう支援します。 ・活動プログラムや1日の流れを構造化し、見通しを持つことで、安心し落ち着いて自発的に行動できるように環境設定をします。 ・朝の会での内容（日付・曜日・天気・活動の流れ）を1つずつ確認をすることで、時間の理解などにつなげます。 ・不安やこだわりが強く現れているときは、原因を探り、落ち着けるよう言葉をかけたりしながら気持ちの切り替えが上手くできるように働きかけていきます。 ・小集団での活動では、言葉と視覚的に説明することでルール理解を促し、安心して活動に取り組めるように支援します。 ・「できた！」という成功体験の積み重ねおよび丁寧に褒めることで自己肯定感を育み、「またやりたい!」「少し難しそうだけどやってみよう!」という意欲の向上を図ります。 ・活動参加は「部分的参加」「指導員と一緒に参加」も肯定的にとらえ、スモールステップにて取り組めるよう促します。</p>

言語  
コミュニケーション

- 言語の形成と活用  
具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。
- 言語の受容と表出  
話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援を行う。
- コミュニケーションの基礎的能力の向上  
障害の種類や程度、興味関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができるよう支援する。
- 指差し、身振り、サイン等の活用  
指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。
- コミュニケーション機器の活用  
各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。
- 読み書き能力の向上

[具体的な支援]

- ・本人の発達および保護者様のご要望をふまえて、言語聴覚士による個別指導を行います。
- ・人に伝えようとする気持ちを大切にし、伝わったという実感が持てるようにします。お子様の様々な表現を受け止めつつ適切な表現方法を伝えていきます。
- ・発音がはっきりしない、発音できない音がある、話始めのタイミングが上手くできなかったりする場合では、必要に応じてお口の体操や話し方のトレーニングを行います。
- ・言語、非言語（発声、身振り、視線、表情等）を指導員が受け止め応答することで、伝わった経験を増やします。
- ・絵カードやマカトンサインを用いて、発語を促したり自分の気持ちを伝えたりできるよう支援します。
- ・同じ文字同士を合わせる、ひらがなをなぞる、単語を読む、砂文字を使うなど楽しみながら文字に親しむ機会を設けます。

人間関係  
社会性

- アタッチメント（愛着行動）の形成  
子どもが基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う。
- 模倣行動の支援  
遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。
- 感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援  
感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。
- 一人遊びから協同遊びへの支援  
周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。
- 自己の理解とコントロールのための支援  
大人を介して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。
- 仲間づくりと集団への参加  
集団に参加するための手順やルールを理解し、子どもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。

[具体的な支援]

- ・安心できる人と信頼関係を作り、そこから周囲の人や物への興味、関心を広げます。
- ・指導員が表現の方法や相手との関わり方の手本を示すことで行動を促し、同年代のお子様とのやり取りをする経験を増やします。
- ・特性を理解し、ひとりひとりに合わせた声掛け、行動への支援を行う中で気持ちや感情の調整ができるように支援します。
- ・リトミックやおままごと遊びを取り入れ、同じイメージを持って遊ぶことができるよう関わります。
- ・SSTの活動を取り入れ、自分の気持ちを理解したり相手との関わり方を学んだりしていきます。
- ・場や物の共有をする中で対指導員・対お友だちとやり取りする機会を設定し、人間関係や社会性の基礎（ルール）となる経験の積み重ねを行います。
- ・“一人で” “相手（指導員、子ども）と一緒に” “集団で取り組む” ことを活動の中で取り入れ、協調性や社会性を身につけます。

<p>家族支援</p>	<p>保護者の困り事や悩み事の軽減 療育場面の見学および、その場での助言、援助（子育てサポート） 個別面談（家族支援）</p>	<p>移行支援</p>	<p>日常的な連携に加え、関わり方についての情報共有 放課後等デイサービスとの連携</p>
<p>地域支援・地域連携</p>	<p>関係機関との情報共有 連携会議の実施</p>	<p>職員の質の向上</p>	<p>事業所内研修 外部研修受講支援</p>
<p>主な行事等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・祝日イベント</li> <li>・特別プログラム（不定期開催）</li> </ul>		